



2012年7月11日

お客様向け資料

BNP パリバインベストメント・パートナーズ株式会社

## 2012年7月10日のブラジル株式市場の下落について

### 市況概況：

2012年7月10日のブラジル株式市場は、商品価格が下落したことなどを受け、ボベスパ指数は前日比3.0%安となる53,705.82で取引を終了しました。

NY原油先物は、中国の原油輸入量減少のほか、ノルウェー政府が石油労働者らのスト終結を命じたことから北海原油の供給懸念が後退し、期近先物（8月限）は前日比2.08米ドル安の1バレル=83.91米ドルで取引を終了しています。（出所：ブルームバーグ）。

また、ブラジルの最大の貿易相手国でもある中国の6月の対前月比の輸入の伸びが市場予想を大きく下回ったほか、6月の鉄鉱石輸入が前月比8.7%減となったことなどから商品価格が下落、CRB指数は前日比1.4%安となる288.64で取引を終了しました。

これらを受けてブラジル株式市場では、資源株や鉄鋼株を中心に大きく下落しました。ボベスパ指数構成銘柄のうち、上昇は5銘柄、下落は60銘柄、変わらずが2銘柄でした。

エネルギー関連では、石油株のペトロプラスが前日比4.2%安、OGXは3.0%安となりました。また、ヴァーレが2.5%安、鉄鋼関連もナショナル製鉄が7.4%安、ジェルダウが3.0%安、ウジミナスが6.1%安と、資源関連、鉄鋼関連の銘柄は軒並み大幅に下落しました。

そのほか、素材関連株、不動産および住宅関連株なども概ね下落、第2四半期業績の速報値が前期比で大幅減となった住宅建設のPDGは、10.7%安と急落しました。

為替市場では、ブラジルレアルは対米ドルでは1米ドル=2.03レアル、対円では1レアル=39.01円で推移しています。（出所：ロイター、7月11日午前9時46分現在）。

### 今後の見通し：

ブラジルでは、4月の経済活動指数（月間GDP指数）が、前月比+0.22%（季節調整済み）となり、市場予想の+0.24%を下回ったほか、5月鉱工業生産が前月比-0.90%、前年同月比-4.26%と、3ヶ月連続で前月比マイナスとなっています。また、6月の製造業購買担当者指数（PMI）も48.5となり、4月以降、景況感の分かれ目とされる50を下回るなど、足元ではブラジル経済の減速懸念が強まっていると考えられます。

こうしたことからブラジル中央銀行は昨年8月から減税や利下げを含む景気刺激策を導入していますが、明日（ブラジル時間7月11日）の金融政策決定会合（COPOM）においても、追加利下げを行う可能性が高いと見られており、金利引き下げは、株式市場の下支え要因になると考えられます。

ただ、足元では景気減速懸念や欧州債務問題に対する不安感が払拭されないなど、厳しい環境が継続するとみられることから、当面は慎重な見方を採ってまいります。

本資料は、BNPパリバアセットマネジメントブラジルが作成した資料をもとに、BNPパリバインベストメント・パートナーズ株式会社が、ブラジル市場に関する当社の見解を提供することを目的として、2012年7月11日に作成したものであり、法律に基づいた開示資料ではありません。本資料における統計等は、当社が信頼できるとされる外部情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。本資料中の数値、図表、見解や予測などは本資料作成時点でのものであり、予告なく変更する場合があります。尚、本資料中の過去の実績に関する数値、表、見解や予測などを含むいかなる内容も将来の運用成績を保証するものではありません。